

沼津市

明治史料館通信

2005.7.25 (季刊 年4回発行) Vol. 21 No. 2 通巻第82号



忠魂社（部田神社）

旧戸田村の戦没者217柱を祀っており、社の中には戦没者の遺影が納められている。

ぬまつ近代史点描 ⑥2

戸田の戦争記念碑

忠魂社

部田神社境内に昭和三〇年一月建立。旧戸田村の日露戦争以降の戦没者二一七柱が祀られ、毎年部田神社の祭典日に併せて慰霊祭が行われている。



〔日露戦役〕忠魂碑

〔日露戦役〕忠魂碑

忠魂碑（後述）が終戦後「マツカーサー指令」により撤去された後、忠魂碑の台座に墓標を建てて招魂祭が執行されてきたが、「御霊」を祀るための社を建てることを、在郷軍人会戸田村分会の元分会長ら八名が諮り、発起人となり建立した。建立のための経費として、在郷軍人会の基本財産である山林の松を売却した。忠魂碑の台座を基礎として、松材を主として建立する予定であったが、「請負者の自発的好意」で総檜造りとなった。「忠魂社」の名は、当市選挙区で、後総理大臣となった石橋湛山（当時通産大臣）が命名した。

（この項は「忠魂社建設由来」棟札（部田神社所蔵）による）

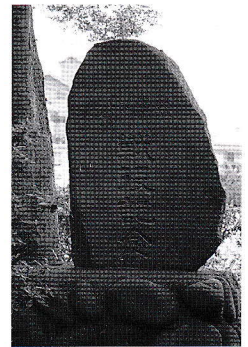
部田神社境内に征清役従軍記念碑と並んで建つ。明治四〇年頃建立。揮毫は陸軍大将従二位勲一等功一級伯爵奥保鞏。裏面に戦没者七名の階級・勲功・氏名が刻されている。戦後、GHQの指令により撤去されたが、前述の忠魂社の建立にともない復元され、現在の形になっている。

征清役従軍記念碑

部田神社境内に忠魂碑と並んで



征清役従軍記念碑



〔義勇奉公〕戦役記念

〔義勇奉公〕戦役記念

部田神社境内に建つ。明治四〇年二月二三日、戸田小学校職員生徒が建立。日露戦争の戦捷記念に建立された。

支那事変大東亜戦争慰霊之碑
大上集会所前に建つ。昭和四四年十月十九日、大上区同志が建立。表面下部に戦没者一三名の戦没年月日・戦没場所・氏名が刻されている。台座に寄付者芳名の石板がある。裏面には従軍生存者として、

出征した方面ごとに四一名の氏名が刻されている。

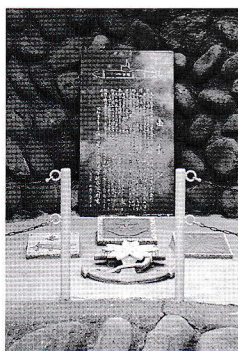


支那事変大東亜戦争慰霊之碑

出征した方面ごとに四一名の氏名が刻されている。

由来記

御浜に昭和五〇年十一月、元第二岡崎海軍航空隊八期生が建立した。碑の前には、日章旗・海軍の象徴である錨と桜・飛行機の絵に「鎮魂」と記されたプレートが4枚設置されている。
昭和二〇年、米軍の本土上陸を阻止する本土決戦体制のために海軍第一五突撃隊が置かれ、駿河湾に面した西伊豆の各所に、特攻兵器の基地として壕が掘られた。戸田では海竜隊の基地として沢海・御浜で壕が掘られ、この作業に第二岡崎海軍航空隊八期生約七五〇名が動員された。彼らは予科連生で、ほとんどが十五歳前後の少年であった。壕を掘る作業の途中、爆発事故により予科連生一名が亡くなったという。



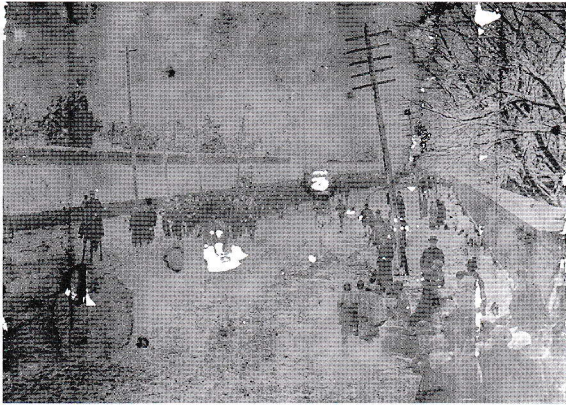
由来記

シリーズ
沼津兵学校とその人材

13

勝海舟と沼津兵学校

子母沢寛の小説『勝海舟』（新潮文庫・第六巻）には、沼津兵学校の設立をめぐる海舟と阿部潜らがりやりとりする場面がある。学校を沼津に建てる計画と聞き、「さすがだねえ。（中略）駿府へなんぞ建てたんじゃいけねえよ。」、名称を徳川家兵学校とすると聞き、「徳川家の為にやるんじゃねえ。日本国の為の仕事でんしょう。」と海舟は言



▲勝海舟（当館所蔵）

▲青山付近を通過する海舟の葬列
（中村通子氏寄贈・当館所蔵）

う。また、「名前は兵学校、陸軍学校、なんとなるか知らねえが、そ奴あ表向きだ、本当は、これからこの国の御役に立つ学術を教えるんだ。」と赤松則良に言い聞かせる言葉もある。さらに、新政府によってすぐに取り潰しになり骨折りになるだろうからイヤだと、なかなか教授就任を引き受けない赤松や伴鉄太郎の態度を聞き、「一年だつて半年だつていいやね。今に新政府も同じようなものをはじめらるだろうが、その時、あ奴ら田舎っぺえの中には、教授がいねえよ。いやでも徳川へ頼みに来る、こつ

ちの奴らを御用召しにする。そんな時に笑つてやるのさ。」と阿部に言い放つ。他にも、海舟が、頭取予定者である西周の陸軍御用取扱任命や杉亨二の教授就任を依頼されたり、沼津を設置場所とすることに難色を示す重役を批判し、掟書の学課表を高く評価する場面などが登場する。海舟は阿部の心強い相談役であり、沼津兵学校の良き理解者とされているのである。

のある房総地域の治安維持・脱走軍鎮撫に従事し、海舟の恭順論にいち早く与した存在であり、二人は兵学校設立に関しても共通する思考を有していた可能性がある。

明治三二年（一八九九）一月二

五日、降りしきる大雪の中、東京青山の祭場において海舟の葬儀が営まれた。葬列には、江原素六・島田三郎も加わっていたほか、『都新聞』一月二六日、会葬者の中に

作者の子母沢は沼津兵学校の本質をよくつかんでいる。ただし、海舟が兵学校設立計画にどこまで立ち入って関与したのかは実際にはわからない。日記によれば、兵学校関係者は彼のもとを頻繁に訪れているが、小説が描いた会話の内容はあくまでフィクションである。岩倉具視あての二年（一八六九）七月六日付書簡に、静岡藩の解兵方針Ⅱ生育方・兵学校制度について説明している箇所があるの

は田口卯吉の名も見られた『東京朝日新聞』同日。三人とも、榎本武揚・大島圭介・福地桜痴らと同様、旧幕臣出身の著名人として新聞に名前があがっただけであり、特に沼津兵学校との関係を意味しているわけではないが、彼らが海舟に対して抱いた敬意の背景には、

戊辰時の平和的解決↓静岡藩の成立↓沼津兵学校の実現↓今日の自分、といった関係性が意識されていたのではないだろうか。島田は『毎日新聞』（二月二四日）に「嗚呼海舟先生逝けり」、田口は『東京経済雑誌』第九六四号（二月）に「海舟勝伯」と題する追悼文をそ

れぞれ掲げている。（樋口雄彦）

で『勝海舟全集』21、五三九頁）、少なくとも海舟が沼津兵学校に対して無知・無関心だったはずはない。また、阿部潜は、慶応四年三月以降総房三州鎮静方として所領

（樋口雄彦）

お知らせ欄

◎企画展開催中

今年には終戦60周年ということで、「1931-1945 沼津と戦争」と題しまして、十五年戦争をテーマに企画展を開催しています。市民の皆様にご寄贈、ご提供いただいた戦時中の資料・写真を数多く展示しています。また、鈴木基之氏の協力を得まして、「戦没者遺骨収集にみる いのちの写真パネル展」も同時開催しています。戦時下と戦後の二つの展示をご覧いただき、

「戦争」と「平和」について考えていただければ幸いです。

期間…7月1日(金)～9月29日(木)
会場…3階南側・4階展示室

※期間中、常設展示「沼津の歴史」は縮小、「沼津兵学校」はご覧いただけません。

図録：「1931-1945 沼津と戦争」

B5版 46ページ
頒布価格…500円

◎歴史講演会のお知らせ

企画展に関連して歴史講演会を開催します。多数のご参加をお待ちしております。

講師…荒川章二氏(静岡大学情報学部教授・日本近代史)

演題…「沼津と戦争―地域から見る戦争」

日時…9月3日(土)14時～16時

会場…当館2階講座室

定員…100名、参加費無料

申込…受付中

当館まで電話または直接

◎高校生のための一日学芸員体験講座の開催

「学芸員」の仕事を経験してみませんか。

日時…8月10日(水)10時～15時

対象…市内在住・在学の高校生

定員…10名(先着順)

参加費…無料、昼食持参

申込み…7月26日(火)9時から

当館まで電話または直接

◎県民の日無料開館日

静岡県民の日8月21日(日)は無料で開館します。

◎古文書解読入門講座の開催

はじめて古文書に接する方を対象に全5回の初心者向け講座を開催します。

日程…9月4日、11日、18日、25日、10月2日の各日曜日

時間…14時～16時

講師…武田藤男(前当館嘱託)

会場…当館2階講座室

定員…40名(先着順)

参加料…無料(辞書代は別)

申込…8月10日(水)9時から

当館まで電話または直接

◎沼津市歴史民俗資料館企画展「はかる」

暮らしの中で使われてきた、「はかる」道具や「はかる」単位に関する資料を紹介します。

期間…7月9日(土)～12月11日(日)

会場…沼津市歴史民俗資料館(沼津御用邸記念公園内)

時間…9時～16時

休館日…月曜日・祝日の翌日・月の末日

問合せ…電話〇五五―一九三二―

六二六六



平成17年7月1日(金)～9月29日(木)

歴史講演会
「沼津と戦争―地域から見る戦争」
講師 荒川章二氏
(静岡大学情報学部教授・沼津市史編さん専門委員)

日時 平成17年9月3日(土)
開場 13時30分 講演14時～
会場 明治史料館 2階講座室
申込み受付 7月1日より 定員100名 ※無料

戦没者遺骨収集にみる いのちの写真パネル展
会場 明治史料館4階展示室
協力 鈴木基之氏

沼津市明治史料館

〒410-0051 沼津市西熊堂372-1
TEL 055-923-3335

○開館時間 午前9時～午後4時30分
○休館日 月曜日(祝日の場合開館)・祝日の翌日
○観覧料 毎月最終平日・年末年始(12/29～1/3) 大人200円・小人100円(市内の小・中学生は無料)
○交通 沼津駅より富士急シティーバス(明治史料館前)下車

沼津市明治史料館通信 第82号

編集 沼津市明治史料館
発行 沼津市西熊堂三七二―一
電話 〇五五―一九三二―三三三五
FAX 〇五五―一九二五―三〇一八
http://www.city.numazu.shizuoka.jp/sisetu/meiji/index.htm